

令和5年11月18日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

令和5年度 第10回

おはようございます。井澤代表幹事の開会挨拶は、『陽明学のすすめⅧ 中江藤樹』から、前回の大野了佐に続いて熊沢蕃山を紹介してくれました。

私が『陽明学のすすめ』を書く上で気にしていることは、出来るだけ人物のエピソードや実話を入れたい、そして出来る限り分かりやすい言葉で親近感の持てる文章にしたい、そう思って書き続けています。中江藤樹の本でも、お弟子さん達の名前を出す時には、この人はこういう人物なのかと何となく興味を覚え、心に残るようなエピソード等を入れていきます。そうしましたら、井澤代表幹事が熊沢蕃山の入門の話を取り上げてくれましたので大変嬉しく思います。

ちなみに、『陽明学のすすめ』はゆっくりと椅子に腰掛けて気楽に読めるように書いています。のんびり読みながら自分の心の中に入ってくるような人間学に関する本と、『警備保障のすべて』のように学問的な体系を専門用語で解説している解説書とは、おのずから書き方が変わります。そういうことを代表幹事の挨拶を聞いて感じましたので、付け加えておきます。

論語の魅力

では、論語に参ります。今回のテーマは「君子」を取り上げました。これが結構大変でした。「君子」について書いた文章は、これまでのテーマに比べて非常に数が多いのです。それらを全部解釈するわけにはいきませんから、大きく3つの観点（A・B・C）を取り上げて、その中でいくつか「君子」についての見方をご紹介したいと存じます。

A 君子の意味

1、孔子が本当の君子とは何かについて語る（①～⑤）

2、孔子本人を指している（⑥）

お弟子さん達は孔子本人を「君子」と呼んでいます。その中から一つ取り上げました。

3、立派な人格者（⑦）

孔子が自分自身を振り返って私はまだそうは出来ていないという述懐を含めて、立派な人格者として君子を紹介している部分があるので、一つ取り上げました。「君子に三戒あ

り」という文章です。中江藤樹は「聖人になりたい」と言いました。聖人の前に「君子」があります。君子といっても最初から出来上がっているものではない。普通の人が三つの戒めを自分なりに努力して身につければ、もう立派な人格者である、と孔子が認めている文章です。

4、一般論 (⑧)

普通の人から見て、又はお弟子さんたちから見て、どういう人たちを「君子」というのか、一般論を書いた文章です。

5、君主 (⑨)

君子は、その国を治める君主であるという見方です。その国のトップ（君主）となる自分の息子に対して、君主の心構えはこうだと訓戒している文章です。

B 孔子が弟子に君子の意味を話す時、誰に話したか相手によって違う (①～⑥)

孔子がお弟子さんたちから、「君子とはどういう心構えで、どういう人物か」と聞かれた時、どう答えたか。孔子が答える内容は、相手によってまるっきり違います。若干理解力に乏しい弟子に話をする時は分かりやすく言い、子貢のように頭が切れる人物にはずばっと答えるし、平々凡々たるお弟子さんが聞いてきた時には、また違った答え方をします。それぞれどう答えたか・・・子路・子貢・子夏・曾子の4人をピックアップして説明致します。

C 弟子たちの会話・弟子と他者の会話 (①②)

弟子たちの会話、或いは弟子と弟子以外の人物との話の中で、君子はどのようなものと語られているので、2つ取り上げました。

今回、「君子」について調べてみたら、これほど様々な視点で話をしていたのかと改めて気が付きました。ということは、お弟子さんから見て、「君子」というものが非常に身近な言葉で、我々も君子を目指そうという気分がお弟子さん達の中に充満していた。そして、その熱気に答えて、孔子も君子について色々な話をしたのだと思います。

全部で17章句をレジユメに書きました。全部は解説できませんから、今日は、A、君子の意味として、君子について5つの見方があることをご紹介します。残りは来月に持ち越します。

解説に入る前に、私は論語の解釈をするにあたって貝塚論語・宇野論語・洪澤論語の三

つを見ていると申し上げていますが、その理由をお話しします。

貝塚論語の中で先生は、「西洋の支配者は、神に対して敬虔であった。しかるに日本の現代の支配者は、自分より強い権力者は恐れるが、それだけで敬虔の情は持たない。私は、こういう権力者の感情と行動に対して哀れみを感じる」と書いておられます。だいたい学者は普通、自分の考えを書きません。先人がどういう解釈をし、それについて私はこう思う…というような言い方はしますが、時の日本の為政者に対して「哀れみを感じる」などと、自分の感情を吐露するなどまずありません。

貝塚先生は日本の政治家（特に総理大臣）について、何故あれほど阿呆なのか、敬虔の情を持たぬ人間が何故総理になっているのか、「私はこういう人間に哀れみを感じる」と公言しているのですから、非常に面白い先生だと感じました。実際に、貝塚先生の解釈の仕方は非常に親近感を持てるものなので、貝塚論語を解説の手引きにしています。

洪澤論語を選んだ理由ですが、私が論語に興味を持ったのは洪澤栄一さんの書かれた『論語講義』いわゆる洪澤論語を読んで、これは洪澤栄一さんが私に対して出してくれた長い手紙だなと感じたからです。

宇野論語は現代における論語解説の中で最高峰に位置すると云われておりますし、私もそう感じています。感覚的に江戸時代の人の話をする時は、その時代背景を踏まえて言わなければいけません。宇野先生の解説は現在の時代背景で十分通じると感じます。尚且つ、宇野先生は湯島聖堂の理事長をしておられました。体系的に見ると、やはり私は宇野論語の体系に属しますから、自分が教えて戴いている系統の中で、現代の時代背景に沿って説明が入っている。これが選んだ理由の一つです。

ちなみに、宇野哲人先生の息子さんの宇野精一先生も、その時代の学者の中でやはり最高峰でした。私は猪瀬前理事長と宇野精一先生の論語講義をお聞きしたことがあります。先生が、論語を解釈するのは大変難しいと話されたのを覚えています。

貝塚先生は私淑しておられた古今東西の学問に通じた大先生から、「学者が論語を解説しても、人の心に響かない。実業家が解釈しなければ、論語の神髄は伝わらないだろう」と言われたと書いておられます。

安岡正篤先生も著書の中で、論語の魅力を言っておられます。安岡先生の先生で沼波瓊音という方がおられました。その方が亡くなられる少し前に安岡先生がお見舞いに行かれると、沼波先生が病室で論語を読んでおられ、「この歳になって改めて論語を味わっている。論語は、その時々年代で意味合いが違って来る。自分の知識が増えれば増えるほど、論語の味わい方が変わる」とおっしゃったそうです。

私も、論語は読んだ時点で納得をしても、5年後・10年後にはまた違った味わいが出てくるものだと実感しています。以前、伊與田覺先生の『百歳の論語』を50歳くらいの社員に勧めたことがあります。その人の感想は、読みやすくて面白かったというものでした。なるほど若いなと思いました。私が今、改めて『百歳の論語』を読むと、これは大変な本だと驚きます。分かりやすく書いてある奥に、どれだけの知恵と血と汗を流したかが垣間見えます。誰でも簡単に読めるけれども、その人間の力量によって読み方がまるで変わるものだと思います。

ということで、論語そのものは別格として、『百歳の論語』を繰り返し読むことをお勧め致します。

A 君子の意味

では、解説を致します。

1、孔子が本当の君子とは何かについて語る

① 子曰く、命めいを知らざれば、以て君子くんした為ること無きなり。

(堯曰第二十・3)

天命を自覚し、それを信じなければ君子とは言えない。

・・・ポイントは、天が私に与えた使命は何か、それが明確に分かっている者は君子への第一歩が合格ということです。天から使命を与えられたと思わなければ、君子と言っではいけないとお考え下さい。

② 子曰く、君子は小知しょうちせしむべからず。大受だいじゅせしむべし。

(衛霊公第十五・33)

君子は、大きなことをさせるとその人物の力量が見えるから、大きな仕事をさせれば良い。小さい仕事をさせると軽く片付けるから、その人物の力量が見えない。

・・・あの人は大したものだと思ったなら、あまり細々した事はやらせないで、最初から大きな仕事を任せれば良いだろうとお読み下さい。

③ 子曰く、君子は人の美びを成し、人の悪あくを成さず。小人しょうじんは是これに反す。

(顔淵第十二・16)

君子は、良いことをしている人を助け成功に導かせる。悪事をしていると気付いたなら戒めて悪さをさせない。それが君子のなすべきことだ。小人物はこれと反対の事をする。

洪澤栄一さんの『論語講義』の中で、「徳川時代、諸侯には頻繁にお家騒動（内紛）が起こった。小人が結託し、悪事を止めることをしなかったからだ。現代の政党を見れば、同じではないか」と言っています。

現代も同じですね。各政党は足の引っ張り合いをして、悪いことをしようとしている時に見て見ぬふりをして失敗させ、自分の党が伸びるような動きをしています。

④ 子 曰く、君子は事え易くして、説ばしめ難し。

(子路第十三・25)

ここは笑い話のような部分です。

君子のもとで仕えるのはたやすいが、君子を喜ばせることは難しい。

・・・君子は相手の能力に合わせて仕事を命じるから、働きやすい。けれども正しい方法で仕事を成し遂げていかなければ、子は喜ばない。君子のところで働いて、君子が喜ぶような働き方が出来るようになると、本人の力量がどんどん上がっていく。君子であれば、そういうことを意識して人を使いなさいと受け止めて下さい。

⑤ 孔子 曰く、君子に三畏有り。天命を畏れ、大人を畏れ、聖人の言を畏る。

(季氏第十六・8)

君子は三つの畏敬の念を持っている。天命（天）を畏れ敬う。大人（その国を掌る権限を持っている人・君主）を畏れ敬う。聖人の言（天命を教える聖人の言葉＝天の言葉）を畏れ敬う。

・・・その後続く文章では、小人物は天の存在を氣にもしないから天命など分からない、大人にも狎れて図々しく、聖人の言葉も軽く見て侮るものだ、とあります。したがって、出来る限り小人物ではなく、君子を目指そうということです。

先ほどお話ししたように、この章句の解説で貝塚先生が「敬虔の感情を持たない為政者に哀れみを感じる」と書いています。

2、孔子本人（弟子達が言う）を指している

⑥ 陳亢 伯魚に問いて曰く、（中略）又君子の其の子を遠ざくることを聞くなり。

(季氏第十六・13)

伯魚（鯉）は孔子の子供です。陳亢は伯魚よりも20歳若いお弟子さんです。

お弟子さんの若い陳亢が伯魚に、「あなたは息子さんなのだから孔先生から特別なことを教わっているでしょう。それを私にもお裾分けして教えて下さい」と聞いたわけです。

(伯魚の返答は略していますので、ご自分でお調べ下さい。)

伯魚の返答を聞いて、陳亢が一つ質問をして3つのことを得たと喜びました。すなわち孔子が息子の伯魚に対して、「詩を学びなさい」、「礼を学びなさい」と言ったこと。それから、孔先生が自分の子を特別扱いしていないということを感じたという話です。

私が注目したのは、弟子である陳亢が孔子のことを「君子」と呼んでいます。弟子同士が孔子のことを「君子」と呼んでいるわけです。

3、立派な人格者

⑦ 孔子曰く、君子に三戒有り。

(季氏第十六・7)

これは佐藤一斎の「三学戒」のもとになっている文章です。

優れた人格者になりたいと思ったら、若い時・中年・老年とそれぞれ戒めるべきものがある。

すなわち、若い時は異性が気になるものだから、異性関係に気をつけなさい。男性は女色に溺れるなど戒めています。壮年（この頃で言うと大体30代）は血氣盛んだから、争うことを気をつけなさい。歳をとったら欲をかいてはいけない。地位や名誉や財産を欲しがってはいけないと戒めています。

但し、これは孔子の時代の年代層です。今でみれば、女色を戒めるのは40代でしょう。闘争心にブレーキをかけなさいというのは、50代・60代でしょうか。老いたらとは、孔子の頃は50代ですが、今は70代・80代でしょう。

先日亡くなった細田衆議院議長が、議長になっても毎月もらう歳費は100万円しかないと語り、庶民感覚とのずれにネットがった言葉が炎上したという話がありました。

ここは、少・壮・老と、それぞれの年代で胸に手を当てれば宜しいでしょう。

時間の関係で論語の解説はここまでとし、来月また続きをお話致します。

恒例の質問

では、恒例の質問に参ります。今年も残りひと月になりました。今年はどうだったでし

ようか、お聞きします。

○ 今年は比較的良い日が続いた方

皆さん手が挙がりました。良い日が続いたと思えるのは、大変良いことです。

○ 今年は比較的嘘はつかなかつたし、嘘をつかれなかつた方

○ 今年は有難うとよく言ったし、有難うともよく言われた方

○ 今年はよく身体の手入れをした方

Zoomで参加されている梅川幹事が、両手で大きく丸を作って下さるので、ほっと致します。論語は円珠経とも云われます。したがって論語は丸を意味します。丸は悟りです。

○ 今年は自分磨きをよくやった方

○ 昨晚眠る時、明日は良い日だったなと思って寝た方

令和5年・癸卯～令和6年・甲辰

・繁栄か没落、岐路の年

来年、令和6年の干支は甲辰（こうしん・きのえたつ）です。令和4年は、「泥沼に入ってもがく年回り」と申しました。今年の1月には、「昨年引き続き、今年は泥沼の中でもがき続ける年である」と申しました。

それを踏まえて来年令和6年は、一層もがき続けて泥沼の底に沈む人がかなり出る。一方、これではならじと飛び上がって泥沼から飛び出す人もいる。ただ、全体的には泥沼は更に酷くなり、もがき苦しむ人がさらに増えると思います。

季刊誌「知足」の1月号に書きますが、甲辰は、種が少し割れて新しい芽が出て来るが、真っすぐ伸びられずに曲がりくねって少しずつ伸びていく。まだ陽の目は見ない。そういう年回りになります。

私は今年、岸田さんは退陣すると思っていたのですが、退陣するきっかけを失いました。今、解散総選挙をすると総理の首をはねられると思うから、結局解散しませんでした。まだひと月ありますから可能性がないとは言いませんが、今のところ解散総選挙はしないでしょう。来年、タイミングを見て解散総選挙をするでしょう。選挙をすれば自民党は落ちるでしょうから、岸田さんは総理大臣の職を退かねばなりません。そうすると新しい総理大臣が出ますので、その人物次第です。

いずれにしても令和5年は間違いなく岐路の年で、真逆さまに落ちていった年でした。来年も同じような流れで行くでしょうが、来年は世界的な話をもっと入れた方が良く思っています。

・コロナは死亡しないことが肝心

とにかくコロナは罹らないことが肝心と申し上げました。今もコロナは流行っています。インフルエンザも流行っているし、得体の知れないウィルスがまた一つ出てきています。ですから今は三つ、流行り病がある。来年はそれが更に広がるであろうと思っています。

・今年には騙されないように

今年だけでなく、当分騙されないようにしなければいけません。今年是中国の三戦について何回か申し上げましたが、三戦という言葉を使わなくても、一般の国民が普通に理解できる状況になりました。騙し騙される年回りです。個人レベルでも騙し騙され、国と国との間でも騙し騙されが当たり前になりました。騙さない方が悪いという世の中に、来年は明確になります。したがって来年は、相当ふんどしを締めてかからねばなりません。

今まで自分が元氣だったから問題ないと思って同じようなやり方をしていると、来年は危ないです。脅かすわけではありませんが、五体満足の人がどこか不満足になる。手術をしなかった人が手術をする。そういう年回りになりますから、ちょっとした体調の変化には気をつけていた方が良いでしょう。おかしいと思ったら、やはり専門家の意見を聞く。即、動くことが肝心です。そういうことを踏まえて私は今年、健康長寿・80代の準備として真向法知足会をスタートさせました。

お時間になりましたが、最後に時事評論として気になっていることを申し上げます。

外形標準課税が騒がれ出しました。資本金が1億円超のいわゆる大企業からは赤字でも税金を取ろう、ということで始めたのが外形標準課税です。ところが資本金を1億円まで減資すれば税金を払わずに済むわけなので、JT Bしかり毎日新聞しかり、気がつけば昨年1年間で上場している大企業の多くが資本金を1億円にしました。税金をとる側の政府も政府なら、払わされる大企業も大企業です。

そこで、資本金と資本剰余金を足して外形標準課税の対象企業になれば税金を取るという制度を現在検討中であるという報道です。私はそれを聞いてすぐに、シムックスでも対応するべく動くよう指示しました。何か気になるものがあれば即座に調べ、即座に手を打つことが必要です。ちょっと考えてから動くのでは、対応が遅くなる。それが来年浮上するポイントです。

もう一つ気になっているのは、防衛費の増税です。岸田さんが来年は減税だとまやかしの言葉を言ったから、その尻拭いをしなければなりません。減税は一年に限るということ

なので、それが終わった後で、所得税・法人税・たばこ税を増税して防衛費を賄うようにしたいという主張をどんどんするでしょう。ですから来年は防衛費増については目隠しをする。まったくせこいやり方で、何と不埒な与党であるかと思います。政党人がそういうことで日本の国が良くなるわけがありません。

政府は、税金を何が何でも取りたい。税金という名前をつけなくても、国民からお金を取りたいわけです。はっと気がついたら、社会保険関係も気がつかないうちに上げています。社会保険料がどれだけ上がっているか、10年前の給料明細書と今月の給料明細書と比べてみると良いと思いますが、だいたい自分の給料明細書をしっかり見る人はいませんね。もっとも最近は画面で確認しなさいという具合ですから、見ないように見ないようにさせています。国民が気がつかない間に、社会保険は社会保険税としてどんどん増税している最中です。

ですから来年の税金の上がり方は半端ではないと思って下さい。物価の上がり方も半端ではない。そうすると、ハイパーインフレの危険性は更に増したなという実感を持っています。

お時間になりました。本日の講話はこれにて終了とさせていただきます。有難うございました。